

テレコム・ユーザのための先端情報誌

テレコム・フォーラム

Telecom Forum



財団法人

日本電信電話ユーザ協会

12

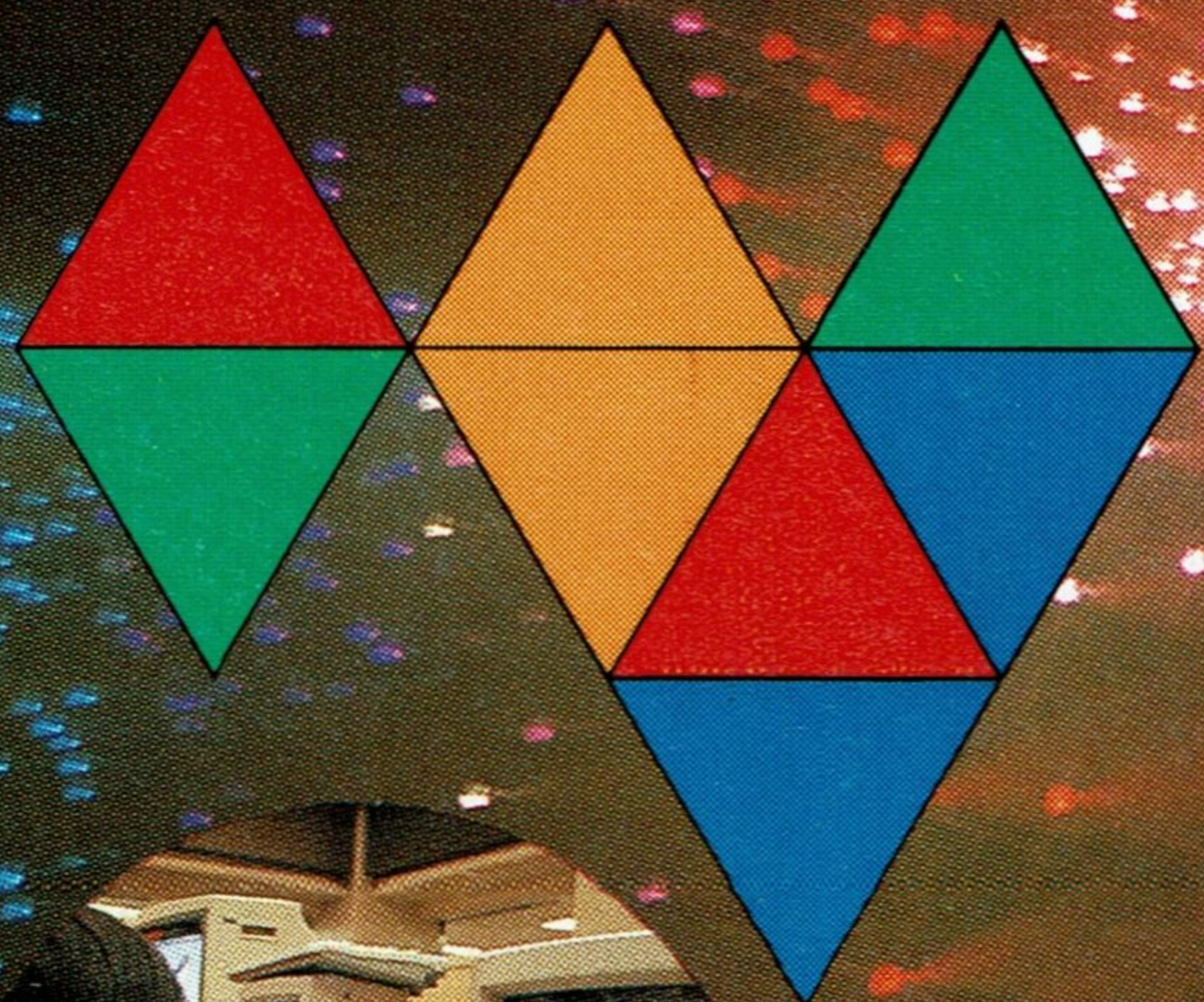
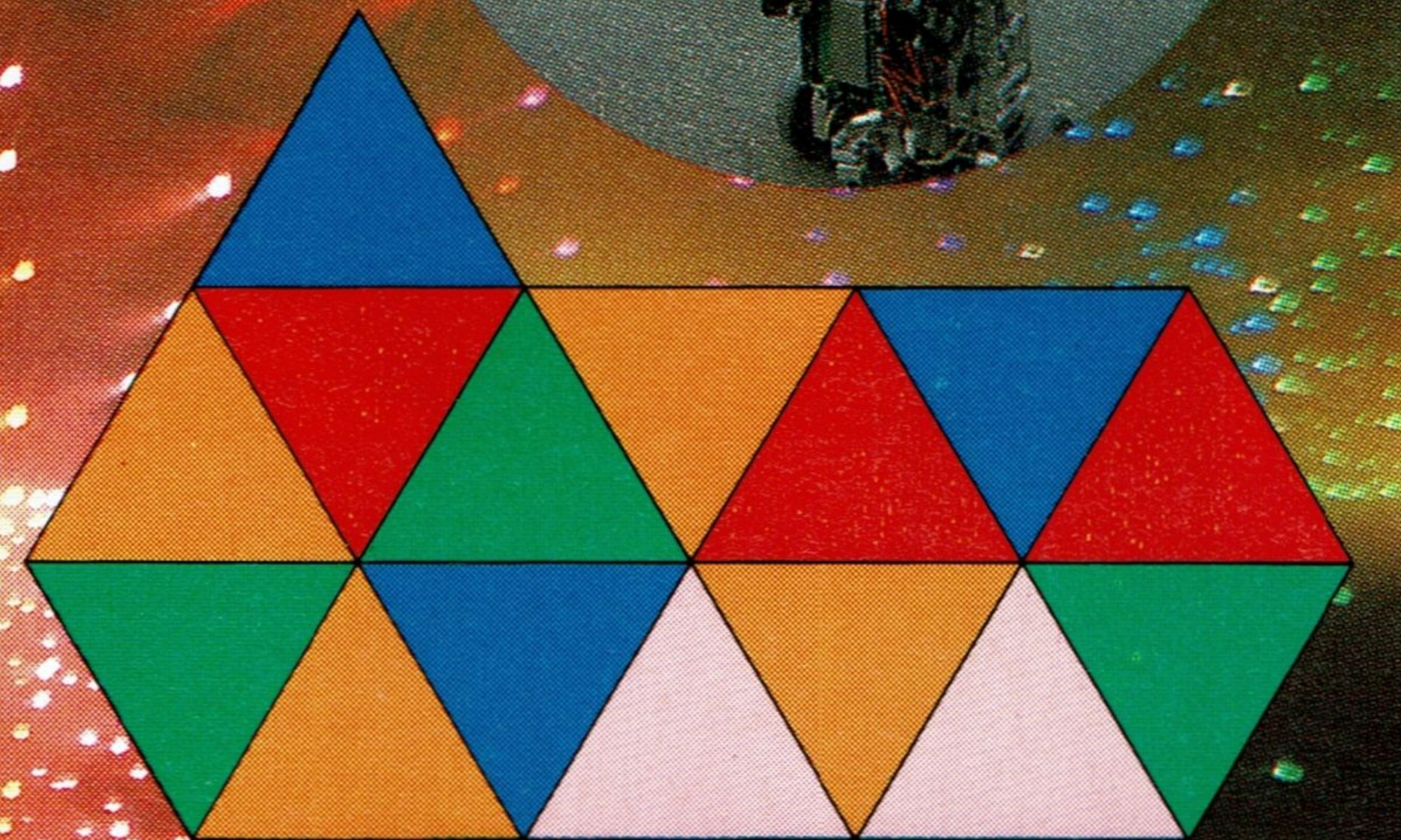
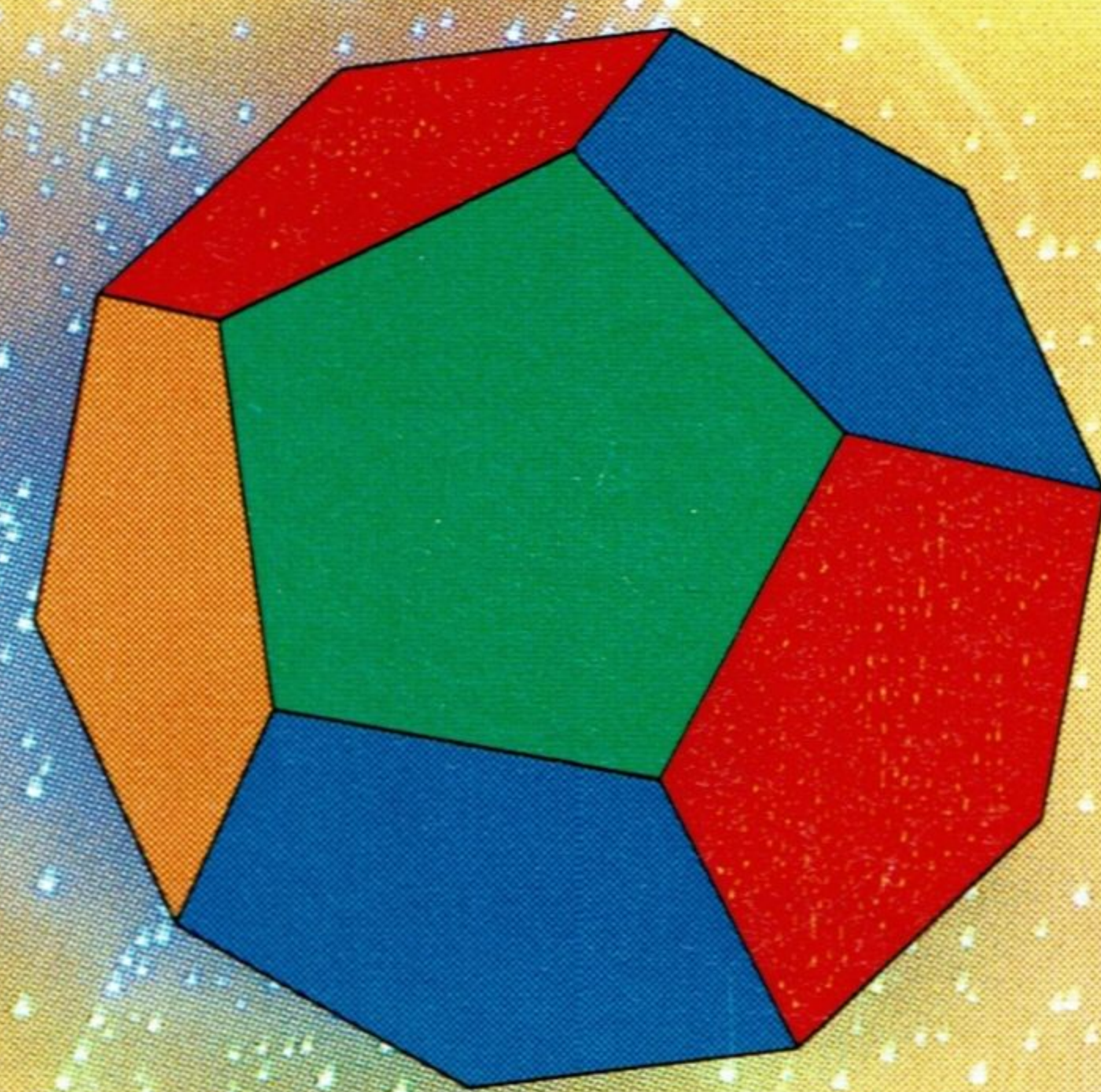
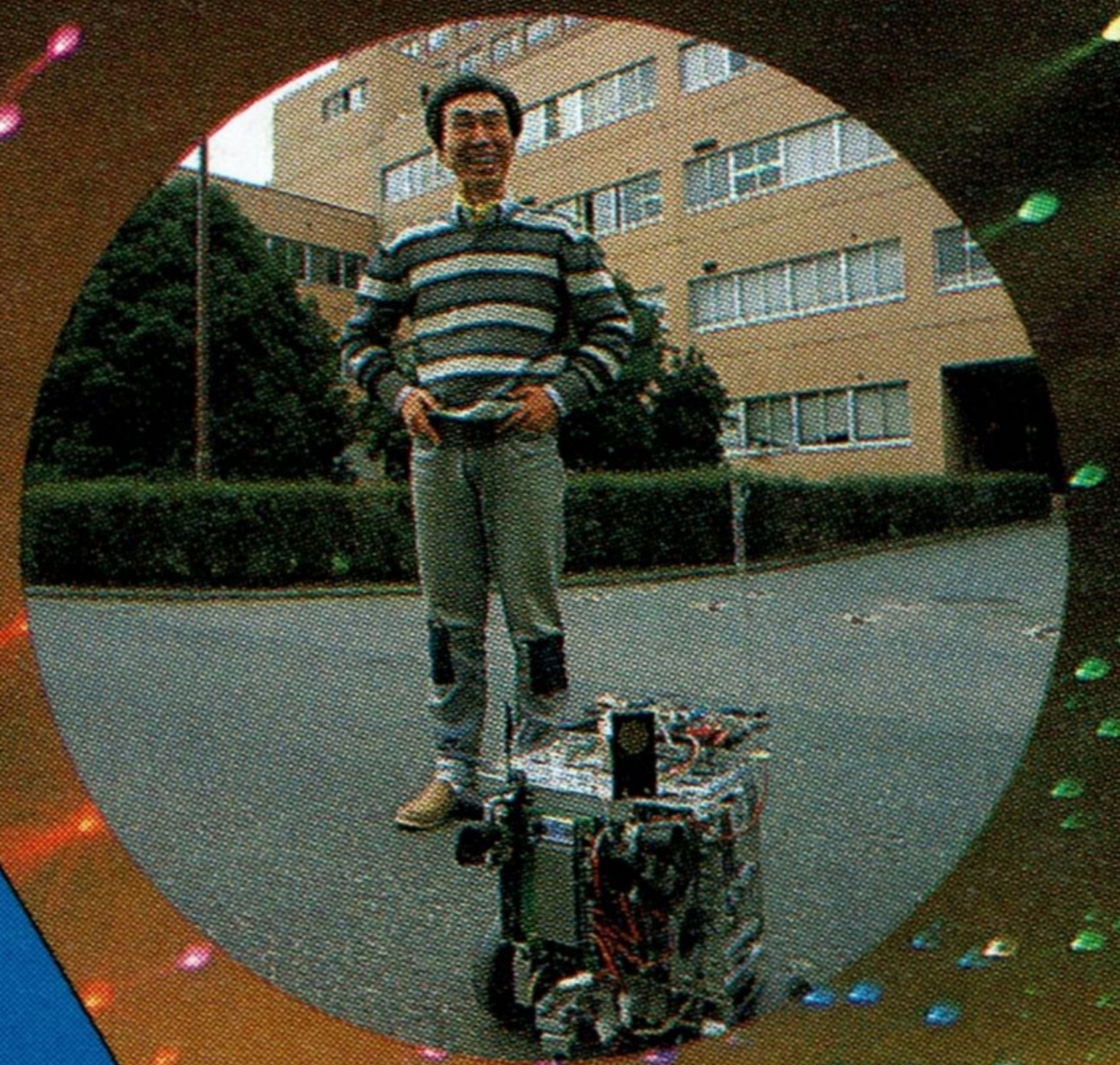
1992

ワイド特集

中小企業のSIS, その考え方

TALK & TALK

世界を駆ける, 情報遊牧民



おもしろ研究室

未来が見えてくる, 移動ロボット『山彦』

ユーザ・レポート

『タウンページ・データベース』できめ細かなマーケティング活動を展開



本町小学校のオープンスペース。
ここに、各学年ごとに分けられ
たパソコンが設置されている。



出口先生と、とても元気な6年3組の子供たち。



パソコンに向かう姿勢は真剣そのもの。このクラブのなかでは、NECの『パソコン絵画コンクール』で入賞した子供も。

パソコン通信の 新たな魅力を発見!

<横浜市立本町小学校>

パソコン、ワープロが自宅にある家庭が多くなってきた昨今、横浜にある本町小学校では、学校でもコンピュータに慣れさせようと、'85年に15台のパソコンを導入した。さらに'89年にはパソコンを40台に増やし、校内のオープンスペースの中で子供

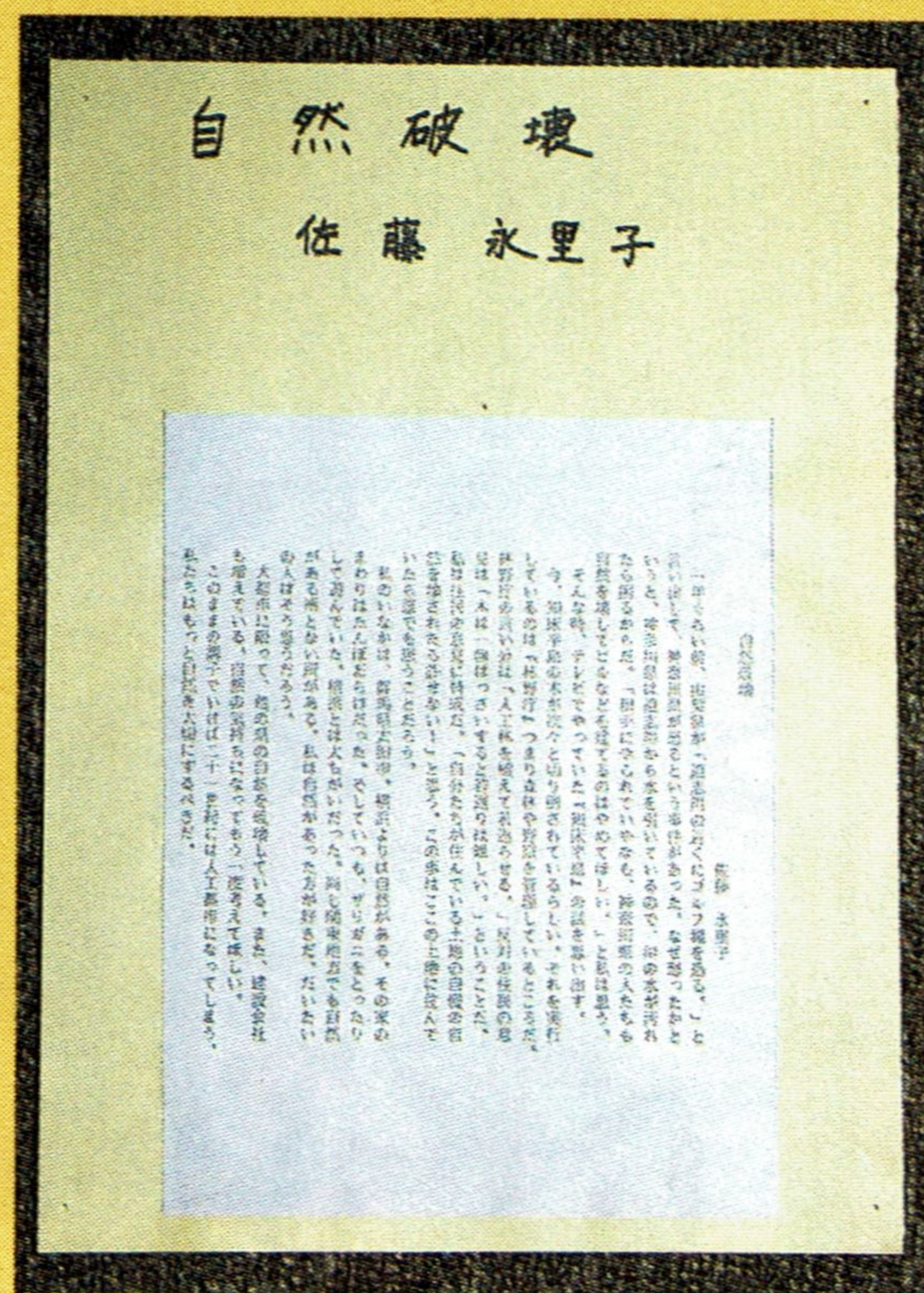
たちがいつでも自由にさわれるような環境を整えている。

そんな中、出口和生先生が担任の6年3組では、パソコン通信ネットワーク(NIFTY-Serve)を利用してさまざまな人とコミュニケーションをとっている。

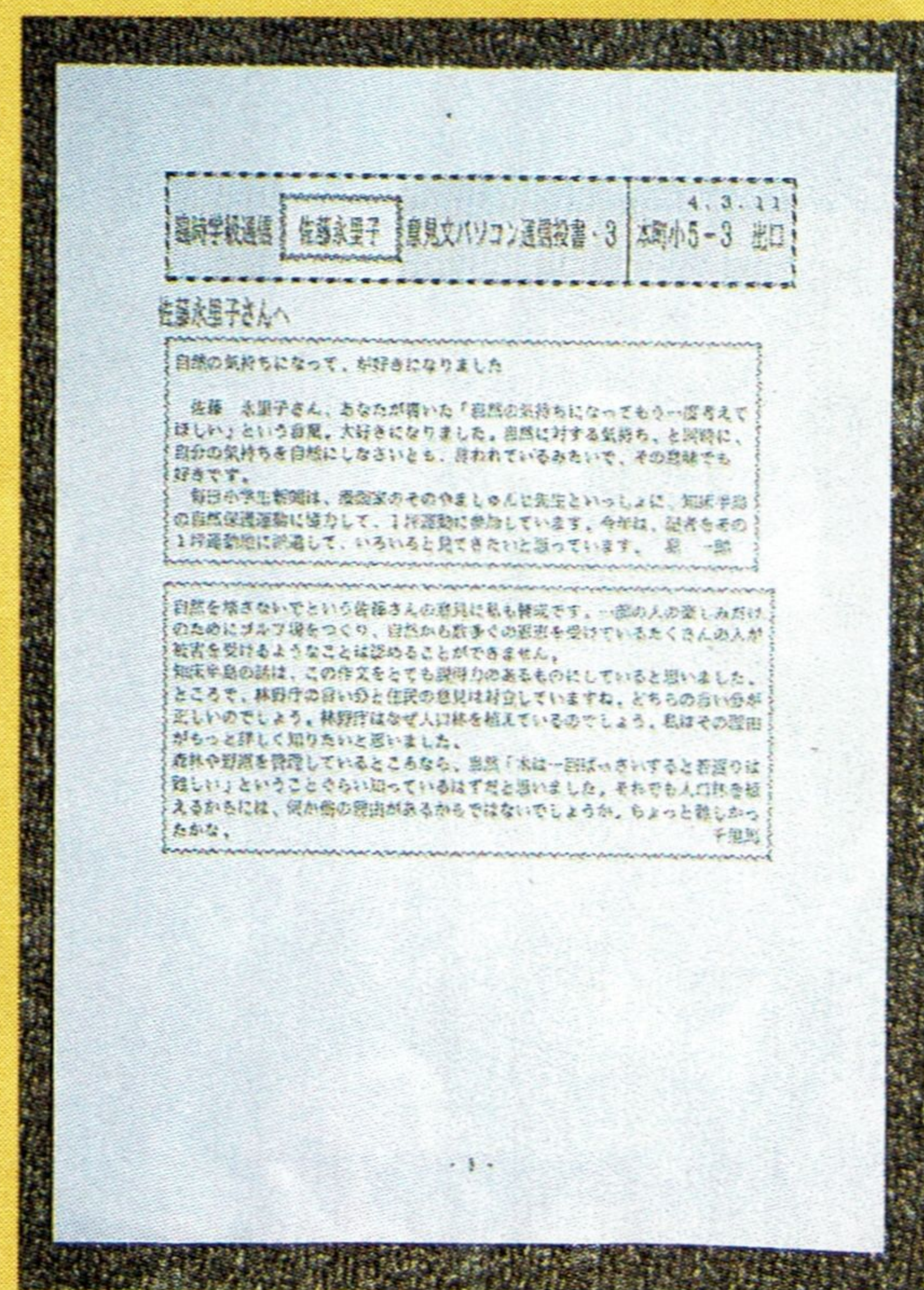
出口先生のクラスの子供たちが、

初めてパソコン通信で見知らぬ人たちと出会ったのは、4年生の時。

『いろいろな地域の人々の暮らし』というテーマで、パソコン通信ネットワークを通じて情報収集をしたのが最初だった。そして、5年生の時に、『身近な問題』というテーマで、クラス全員の作文を先生がパソコン



6年3組の子供たちが5年生のときに書いた作文。このときのテーマは自由で、このほか、ゴミ問題、麻薬問題といったテーマもあった。



パソコン通信で送られてきたその返事。この、「千里馬」なる人は、子供たち34人全員分の感想を送ってきた。



操作がわからなくなっても、先生がすぐに教えてくれるので、子供の興味はつきない。



子供たちにとっては、パソコンは近づきにくい「機械」ではなく、仲のよい「道具」である。

通信ネットワークの中の電子掲示板サービスの『会議室』に送った。始めは、ネットワークのメンバーから本当に返事が来るのか半信半疑だったそうだが、送った初日から、5人の人たちが感想を『会議室』に送ってきた。中には、34人全員の作文に感想を送ってきた人もいて、子供たちも大喜びしたそう。

6年生になった現在、子供たちはそれぞれ自分の身のまわりの出来事を記事にして送っている。また、

『環境問題』にテーマを絞った作文を、再びパソコン通信に送る予定になっているそうだ。

子供たちは、個人あてに返事がくるのを喜んではいないが、次にはクラス全員がネットワークの中で他のメンバーと意見を交換できることを夢見ている。

<PC-VAN>

一方、パソコン通信で連載小説を毎日掲載するサービスを始めたのが、

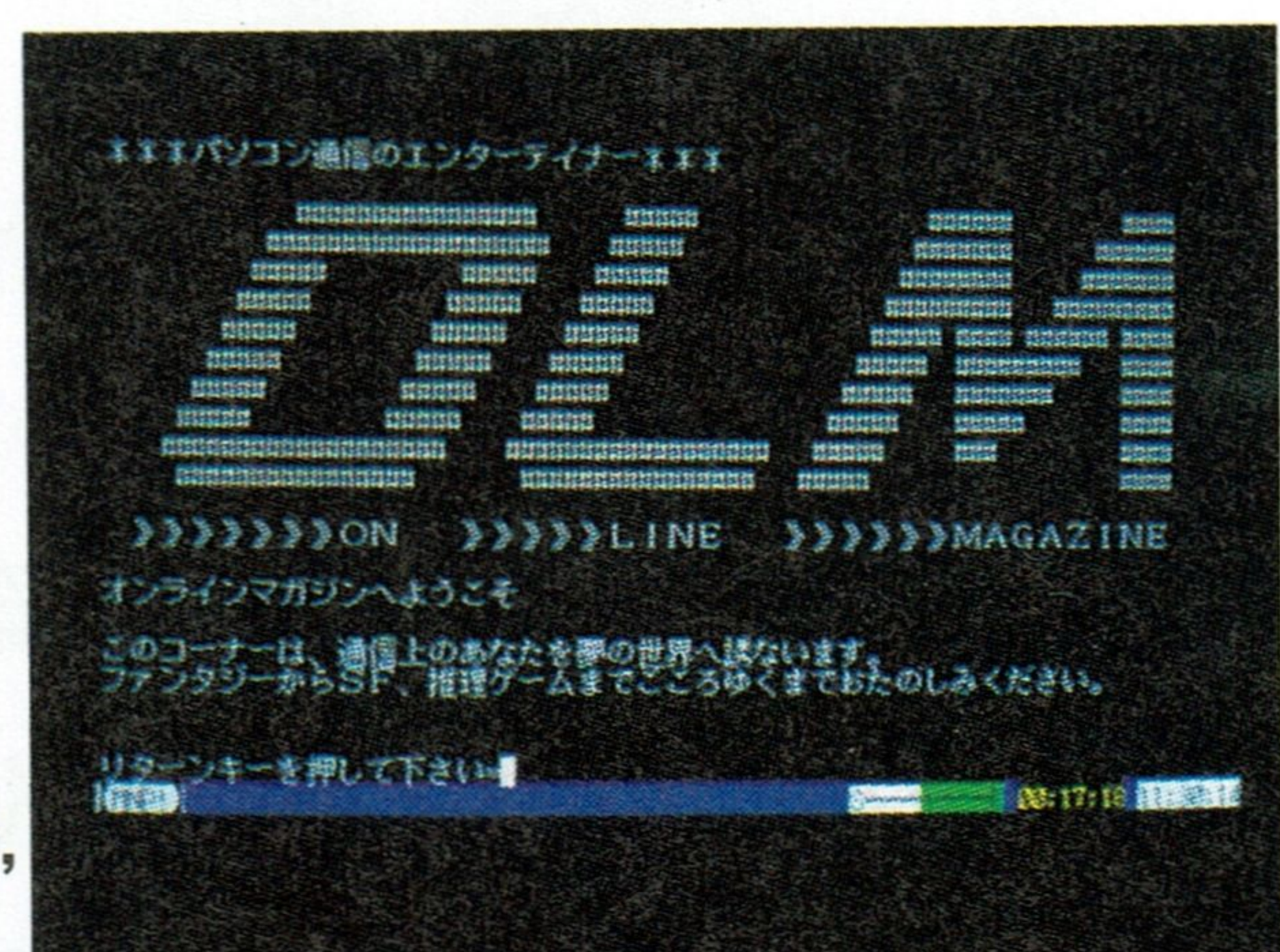
PC-VANである。'86年にパソコン通信サービスを開始した頃は、利用者のコミュニケーションの場として使われることが多かった。'91年春先からは、アクセスはするものの、書き込みをせずに、情報を引き出したり、読んだりするだけの人も増えてきた。そういった人たちのためのサービスとして、'92年の春から提供されたのが、オンライン上で連載小説が読める『OLM-オンラインマガジン』である。



本町小学校のパソコンクラブのメンバー。4～6年生までが参加している。



ホスト・コンピュータルームの様子。『PC-VAN』の膨大なデータが蓄積されている。



『オン・ライン・マガジン』にアクセスした場面。これが、通常の小説の表紙にあたる。

この『オンラインマガジン』は、新進作家の加藤幹也氏や鎌田三平氏らの書き下ろし小説や、推理小説などを毎日連載するサービスである。

小説は毎日、あるいは毎週午前0時に、次回の分と入れ替わる。その日の掲載分は、随時蓄積されていくので、読み逃してしまっても、通して読むことができる。さらに、連載終了時には、第1回から最終回までを、新たに編集し直したものを数カ月間保存しておくので、読者は丸ご

と1冊分、読むことができるわけだ。

ここまでは、新聞等の連載小説と変わらないが、やはりパソコン通信ならではの特征がある。以前、連載小説を書いていた歌手の谷山浩子さんの場合は、連載中に読者と、感想をパソコン通信のフォーラムで語り合ったりしたそう。また、現在連載中の、鎌田三平氏の『宇宙探査船ムサシ』という小説では、読者が物語の中に登場して、参加できるゲーム性の強いものになっている。つま



『PC-VAN』のVANセンタールームの様子。



検索メニューにしたがって、連載小説を呼び出しているところ。

り、読者の意見によってストーリーが変わっていく小説なのである。

PC-VANでは、現在、若い人向けの小説を連載しているが、今後は、パソコン通信で一番利用者が多い30～40代の人たちを対象とした時代小説や、画像を動くようにして連載マンガを始めることなども考えているという。

パソコン通信の裾野が広がるとともに、また、新たにパソコン通信の可能性と魅力が発見されそうだ。